

連載

21 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

先生、すまんが家が忙しいんで退院したいんじや。



最近の施設入院患者の治療には、医学的に高度な治療を要する胃ろうや尿管留置のほか、認知症の問題行動の病状など多岐に渡ります。施設も小規模多機能型、短期入所型、グループホーム型、老人ホーム型、サービス付き高齢者向け住宅型など目まぐるしい限りです。

今回、82歳の女性が介護付き有料老人ホームに入所されました。ご家族(息子1人、娘2人)は県外在住で、8年前にご主人を亡くされてから独居状態にあったのですが、最近、台所の鍋を焦がしてしまったり、屋内で転倒したりすることがあったようです。ご本人は施設入所をかたく拒んだのですが、病気入院ならしかたないと従ったようです。つまりこの施設は本人の前では病院という設定になっているというわけです。

「上田ハナ(仮名)さん、回診ですよー」と声をかけると、「先生、そろそろ退院させてよ。私は早く家に帰ってかたづけせんといかんよ」と言います。私は「もう少し入院してよ。検査があるんよ。でもだいぶ体も良くなってきているから大丈夫」と、今日も答えているのです。

わが国の家族構成は高度成長期より、三世代同居から若者は都会へ、また自立の道へと向かいました。

現在、高齢者だけの生活を強いられている方がたくさんいます。それは色々な社会問題となっています。だからこそ、国策でもあるノーマライゼーション(老若男女・障害があるなしにかかわらず普通の生活ができる地域社会をつくっていかうという考え方)の概念実行が大切なのです。

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>